

【学校の教育目標】
よりよく生きぬく釜っ子
たくましい子 よく考える子 思いやる子

【児童の実態】

- 課題解決に向けて、既習事項を基に自ら学習しようとする児童が増えた。
- 自分のタイミングで仲間と考えを交流し、考えを伝えることができる。
- 相手の意見との違いや共通点を考えながら聞き、根拠に基づいた説明を通して互いに学びを深め合う力に弱さがある。

【願う児童の姿】

- ・自ら課題を見つけ、解決策を導き出し、最後まで粘り強く追究できる。
- ・仲間と関わり、学び合う中で、数学的な見方・考え方を働かせて、根拠を明確にして説明し、学びを深めることができる。
- ・自分の学習状況を見つめ、自己の課題に気づき、粘り強く学習に取り組むことができる。

【研究主題】
数学的な見方・考え方を働かせて主体的に学ぶ子
～小規模校ならではの個別最適な学びと協働的な学びのある授業～

【研究仮説】

単位時間で活用する数学的な見方・考え方を明確にした「指導と評価の計画」を作成し、一人一人の実態把握をもとに思考の流れを分類、その指導援助を明確にし、学習活動において児童が自ら課題を見つけ、既習事項を活用して解決に向けて取り組むための課題化を工夫し、根拠に基づいた説明ができるように個別最適な学びと協働的な学びを支援すれば、数学的な見方・考え方を働かせて主体的に学ぶ子が育つであろう。

【研究内容1】
数学的な見方・考え方を働かせるために

- (1) 単位時間で活用する数学的な見方・考え方を明確にした「指導と評価の計画」の作成
- (2) 確かな実態把握をもとに、思考の流れを3つ(2つ)のタイプに分類

【研究内容2】
主体的な学びを充実させるために

- (1) 児童の実態に応じ、解決に向けて主体的に取り組むための課題化
- (2) 根拠に基づいた説明と深い学び合いを促す協働的な学び
- (3) 学びに向かう力を高める自己の学びの言語化

授業の基盤として(釜戸小学校で大切にしてきた算数の授業)

- ・解決の見通しをもたせる指導(既習事項の確認・キーワードを位置付ける板書・ヒントカード)
- ・ICTの効果的な活用の仕方
- ・「意味や理由及びよりよい解決」に向かうための話し方、聞き方

1 研究主題

数学的な見方・考え方を働かせて主体的に学ぶ子

～小規模校ならではの個別最適な学びと協働的な学び～

2 主題設定の理由

昨年度、市の研究指定を受け3年目となり、研究主題「数学的な見方・考え方を働かせて算数を主体的に学ぶ子～小規模校ならではの個別最適な学びと協働的な学びのある授業～」として研究発表会を行った。

本校は、少人数で、児童数が減少傾向にあり、本年度から2・3年生が複式学級になるという現状から、教師主体で進める授業から児童が主体的に学習を進められる授業を目指し、この3年間、主に次のような内容で研究を進めてきた。

- ・単元や単位時間で付けたい数学的な見方・考え方やそれを支えるキーワード・アイテム、評価の仕方を明確にすること
- ・より正確な実態把握（児童の学習に向かう姿勢、既習事項の定着、数学的な思考の傾向など）をして、学級内をABCの3つのタイプ（学級の実態によっては2つ）に分類し、予想される児童の姿とねらいに迫る教師の手立てを指導案に位置付けること
- ・課題解決の見通しをもたせ、タイプに応じた指導援助（ヒントカードなどを用意）をしたり、学び合いのコーディネートをしたりして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の在り方を工夫すること
- ・自己の学びをアウトプットすること、教師が価値付けを行うことによって、学びを実感させること

その結果、児童の姿として、大きく次のような成果があった。

- 導入に（一斉指導で）問題から課題解決のための既習事項を確認し、見通しがもてれば、自ら課題解決しようと主体的に学びを進める姿が増えた。
- 自分のタイミングで仲間と交流し、根拠を明確にして（キーワードを使って）説明できるようになってきた。また、仲間と関わり、学び合う中で、数学的な見方・考え方を働かせることができるようになってきた。
- 授業の流れ（問題提示→課題→見通し（既習事項の確認）→個別最適な学び・協働的な学び→全体交流→一般化→まとめ→練習問題→振り返り）が定着してきた。

3年間行ってきた児童の意識調査の結果でも、「算数が楽しい。」「算数の授業で、仲間の考えを聞いて『分かった』と思うことがある」という児童が年々増えてきた。

しかし、本来、釜戸小が目指したい「主体的に学ぶ子」については、次のような課題が残った。

- ・全体である程度の見通しをもてれば、個人追究しようとするが、自ら課題を見つけ、それを解決していこうという力が弱い。
- ・仲間と交流するが、行ったり来たりがあまりなく、学びを深め合う姿にはまだいたっていない。
- ・教師の指示を待っている傾向がある。

そこで、今までの研究をもとに、令和7年度は、さらに児童が主体的な学びを進められるように、既習事項を活用し、解決に向けて主体的に取り組むための課題化、協働的な学びを充実させるために、単なる情報交換に終わらない、深い学びにつながる学習活動、数学的な見方・考え方を働かせて根拠に基づいた説明（議論）を通して、児童が互いに学びを深め合うための支援を行っていきたい。

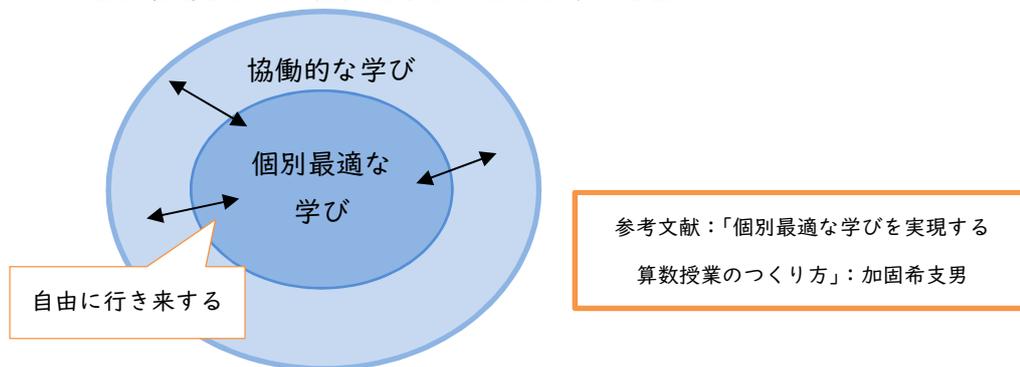
昨年度同様、少人数だからこそ可能なきめ細やかな指導、個別最適な学びと、自己の学びの言語化を継続しつつ、教師の与えすぎていた指導を改善し、より主体的な児童の育成を目指して、昨年度に引き続き、上記の研究主題と下記の研究内容を設定した。

3 目指す児童の姿

本校が目指す児童の姿は、以下のとおりである。

- ・自ら課題を見つけ、解決策を導き出し、最後まで粘り強く追究できる。
- ・仲間と関わり、学び合う中で、数学的な見方・考え方を働かせて、根拠を明確にして説明し、学びを深めることができる。
- ・自分の学習状況を見つめ、自己の課題に気付き、粘り強く学習に取り組むことができる。

*個別最適な学びと協働的な学びを行き来する姿



4 研究仮説

単位時間で活用する数学的な見方・考え方を明確にした「指導と評価の計画」を作成し、一人一人の実態把握をもとに思考の流れを分類、その指導援助を明確にし、学習活動において児童が自ら課題を見つけ、既習事項を活用して解決に向けて取り組むための課題化を工夫し、根拠に基づいた説明ができるように個別最適な学びと協働的な学びを支援すれば、数学的な見方・考え方を働かせて主体的に学ぶ子が育つであろう。

5 研究内容

【研究内容1】数学的な見方・考え方を働かせるために

- (1) 単位時間で活用する数学的な見方・考え方を明確にした「指導と評価の計画」の作成
- (2) 確かな実態把握をもとに、思考の流れを3つ(2つ)のタイプに分類

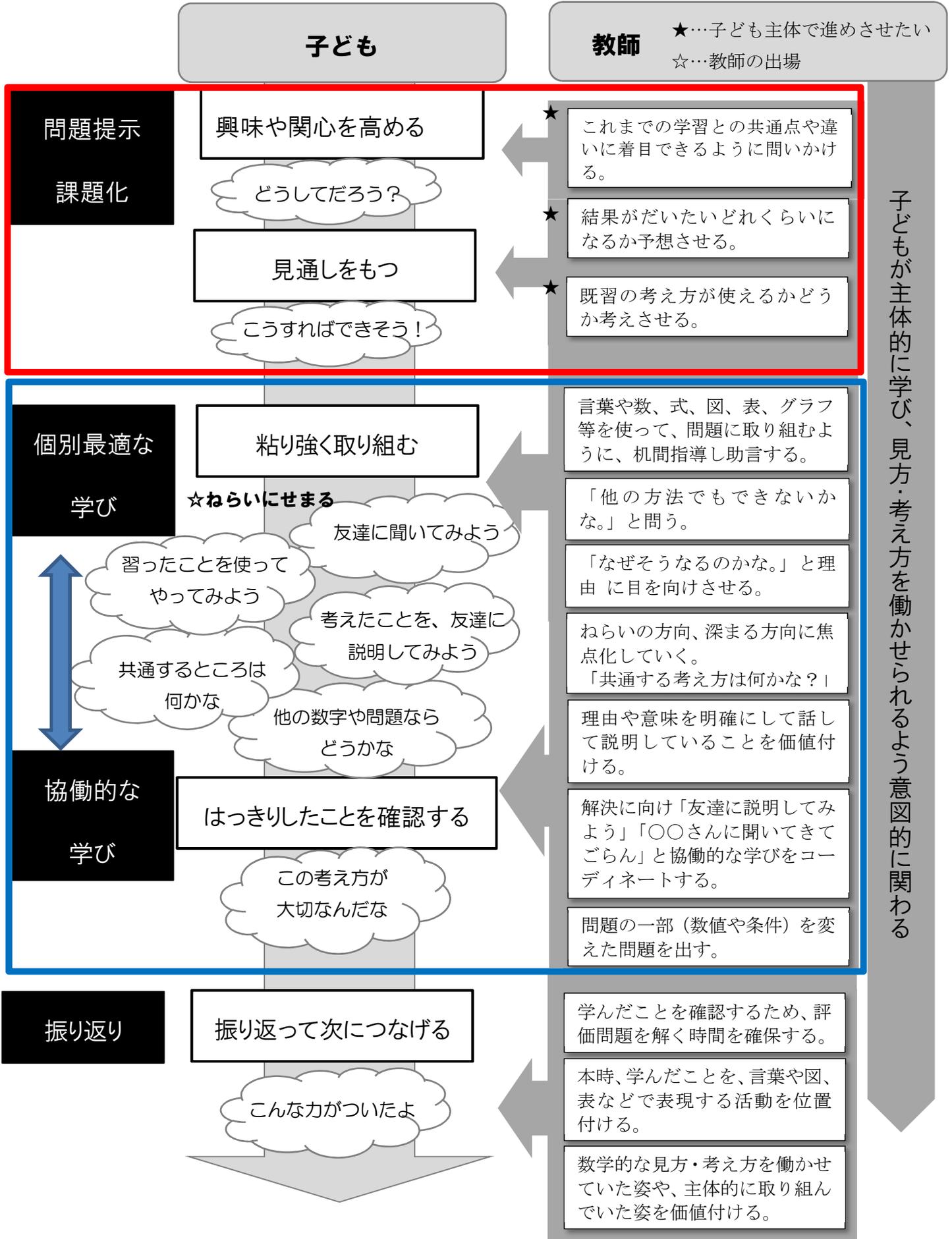
【研究内容2】主体的な学びを充実させるために

- (1) 児童の実態に応じ、解決に向けて主体的に取り組むための課題化
- (2) 根拠に基づいた説明と深い学び合を促す協働的な学び
- (3) 学びに向かう力を高める自己の学びの言語化

*授業の基盤として(釜戸小学校で大切にしてきた算数の授業)

- ・解決の見通しをもたせる指導(既習事項の確認・キーワードを位置付ける板書・ヒントカード)
- ・ICTの効果的な活用の仕方
- ・「意味や理由及びよりよい解決」に向かうための話し方、聞き方

6 「主体的な学び」を育む指導



子どもが主体的に学び、見方・考え方を働かせられるよう意図的に関わる

7 研究計画

期	内容
I (4月・5月)	・釜戸小の算数の授業スタイルを共通理解するための授業公開 (6年)
II (6月・7月)	・児童理解のための特別支援学級の授業公開 (青空)
III (8・9・10月前半)	・10月後半 全校研(1年)主事訪問 (月 日)
IV (10月後半・11月・12月)	ブロック研(2・3年 5年生)(ご指導いただく)時期はそれぞれ適切に行う。 ・11月～12月 4年生ご指導込みの授業(指導主事) (月 日)
V (1月・2月・3月)	・研究のまとめ、来年度の方向検討

*全校研を期に2つ行う場合もあり。

○職員が、2つのブロック(低ブロック、高ブロック)に分かれて研究を進める。

低ブロックー青空、1、2、3年、教頭 高ブロックー4、5、6年教務

ブロック研の指導案検討はブロックで行う。授業については、ブロックの先生は参加、それ以外は自由参加。研究会はブロックで行う。参加者ブロック・研推長・管理職・指導の先生

○指導案は、ブロックで検討する。全校研は、ブロックの後、研推で検討する。

